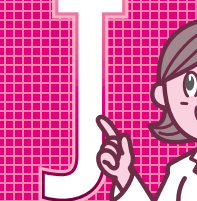


ご存知ですか...??



# 日本糖尿病療養指導士

糖尿病は生活習慣病関連の病気として国際的にも注目的になっていきます。世界の糖尿病の有病者数は2億4600万人とされています。

世界中で年間7000万人が糖尿病を発症し、世界中で1000万人が糖尿病で足を切断し、世界中で3000万人が糖尿病が元で死亡している。この数字を重く捉えた国連は2007年に「糖尿病撲滅運動」を決議採択した。シンボルマークはブルーサークル：昨年11月には一日だけ東京タワーが青くなりました。一方、我が国では「糖尿病を強く疑われる人」「糖尿病を否定できない人」の人口は4年間で250万人増加して、1870万人になっています。

糖尿病は単に血糖が高いだけならば、それほど大きな問題にはなりません。では、何が問題になるのかということなのです。

糖尿病医療の大きな問題は、①長期の高血糖を放置することで患者さまの生活の質を低下させる不可逆性合併症をおこしてしまうこと②糖尿病治療の95%以上が患者さま自身による自己管理によるもので患者さまには糖尿病に対する正しい知識が必要であること③糖尿病専門医の絶対的不足状態の中では、患者さまへのきめ細かな医療の提供は困難な状況にあることなどがあげられます。

このような現状だからこそ、私達CDEの活動の場があると言えます。

## CDEの役割と機能

- ①糖尿病に対する深い知識と技術を持ち患者さまに接する。
- ②患者さまの社会的・心理的背景を理解する。
- ③患者さまが自身の生活を振り返り、糖尿病にとって良い習慣に行動変容できるように援助する。
- ④患者さまと共に行動目標と具体策を設定し評価修正する。
- ⑤行動変容した生活習慣が継続できるように援助する。

## 当院でのCDEの活動

### ① 糖尿病教室の運営

#### ◆教室の目的

①患者さまが糖尿病に対して正しい知識を得て、自己管理の必要性が理解できるように。

②糖尿病の自己管理に向けて、目標を立てて、実生活の中で取り組めるようになる。

#### ◆教室の実際

2週間1クルールのスケジュールで開催しています。会場は4階のティールーム、内容は別表をご参照下さい。どなたでもご参加できます。

### ② 糖尿病患者会(オリーブの会) 設立と運営

#### ◆患者会の目的

- ①糖尿病に関する正しい知識を習得し、実生活で実践していくための情報交換を行う事とする。
- ②会員相互の親睦を図る。

「糖尿病は医者にかかるだけでは治せない。今、あなたに必要なのは糖尿病に対する正しい知識と先輩患者さんのアドバイスです。」と日本糖尿病協会は提唱しています。当院は平成15年9月に設立総会を開催し以後毎年イベントを開催しています。12月「調理実習」2月「楽しくバイキング」5月「みんなで歩こう会」7月「みんなで語る会」、バイキングと歩こう会は、つま恋さんの協力を頂き、糖尿病患者さまだけでなく、健康に関心のある方のご参加も頂き、毎回参加者は50名を超えるほどの人気です。語る会では少人数ながら日頃、自己管理に工夫してる点、悩んでいる点など自由に話し合ってもらい、終わりに一人ずつ自己目標を発表して頂いています。「糖尿病の治療は患者一人ではできない。仲間がいるからやっつけける。」患者さまの率直なご意見です。

### ③ 中東遠糖尿病研究会

#### ◆研究会の目的

- ①糖尿病患者さまが質の高い医療を受けられる。
- ②スタッフが糖尿病医療の知識を深め、患者さまが主体的に治療に取り組めるように援助できる。
- ③地域の医療スタッフとの交流を深め、病診連携・病病連携に役立てる。

CDE制度が発足したと同時に研究会が生まれ、今年で7年目を迎えました。毎月1回、基本的には第3土曜日、14時から16時に開催しています。参加者は当院のスタッフが始め、近隣の病院・医院のスタッフが参加しています。最近では一般の方や、糖尿病患者さまの参加もあります。当研究会は「日本糖尿病療養指導士認定機構」の認定更新のための研究会としても位置づけられて、スタッフの認定更新に一役買っています。

日本糖尿病学会誌、日本糖尿病協会出版の患者情報誌「さかえ」日本糖尿病療養指導士認定機構のホームページでも紹介されている研究会です。

一昨年より、全国的にも著明な講師をお招きして特別講演会を開催しています。より専門的な糖尿病の学びが掛川でできることを誇りに思います。

## 終わりに

1870万人いると言われている糖尿病。良好な自己管理ができている患者さまは僅かに16%に留まっていると言われています。この数字は自己管理の困難さ、継続治療の困難さを物語っています。

当院のCDEJは看護師・管理栄養士・理学療法士・薬剤師・臨床検査技師の5職種、20人がいます。

当院の糖尿病チーム医療の強みです。5月に赴任した医師を中心にスタッフが協力して今後も「患者さまにとって」を合い言葉に地道な活動を続けたいと思います。

